

国語

➡ 中学年 | 「段落相互の関係に注意しながら、様子を詳しく表す文を書くことができるようになるろう」

3コマ漫画作文を書こう

1. 2コマ目まではどんなお話かな



はじめに、左のような絵を提示します。そして、どんなお話を想像して、2段落に分けて文に書きます。

次に、書いた文を読み合って、様子を詳しく表すために工夫すればよいことについて話し合います。

その活動で『しゃべった言葉やつぶやきを「 」で書くこと』と『オノマトペを使えばよいこと』などの意見が出ればよいでしょう。もし、そのような意見が出なかった場合は、教師が示すことになります。

そして、その工夫を使って2コマ目までの文を書き直します。子どもたちがオノマトペについてわかっていない場合は、教師が説明したり、この漫画に使えるようなオノマトペを一覧表にして提示したりします。

2. 3コマ目はどうなるのでしょうか

次に、3コマ目の空白がどんな話になるのか想像させます。たとえば、「すごく大きな魚が釣れた」「小さい魚がいっぱい釣れた」「魚以外のものが釣れた」「何もつれなかった」「池の栓を釣り、水が無くなってしまった」など、いろいろと想像できます。

この課題が難しい子の手立てとして、ペアなどの

グループで相談したり、全体でどんな話を考えたかを発表し合って交流したりする活動を仕組みます。そして、自分が「これがいい」と思った3コマ目の話を文章で書きます。3コマ目のストーリー展開が同じになっても、個々に文を書いていけば、使う言葉がちがってきます。

もちろん、3コマ目を書く時にも、「 」やオノマトペを使うように、教師が言葉かけをします。3コマ目が、「起承転結」の「転」に当たります。

3. さらに、こんなことも…

①4コマ目も想像して、お話が完結するように書かせます。できた作品は「起承転結」のお話になります。

②2コマ目まで絵が描かれている別の漫画を提示します。今度は、自分で3(4)コマ漫画のストーリー展開を想像して、文に書きます。学んだことの定着を図るために再度書かせるのです。

③学習の初めに「作った作品を1年生にお話ししよう」という課題を設定しても、おもしろいと思います。そうすれば、子どもたちにとって、学びの目的意識が強まり、1年生にもわかるストーリー展開を考える必要が生まれるからです。

1年生への発表の際には、1年生とペアになり、紙芝居形式で伝えると盛り上がります。

4. 文の評価は……

子どもたちが書いた文の評価は、指導したことと整合しなければなりません。この3コマ漫画作文では、『内容のまとめりごとに段落分けをして書いているか』『オノマトペや「 」を適切に使って様子を詳しく書いているか』などが考えられます。